

令和 2 年度

「運営に関する計画」最終評価

大阪市立南恩加島小学校

令和 2 年 3 月

大阪市立南恩加島小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 本校児童は、「人懐っこい」というよさがあり、進んであいさつができたり、他者とコミュニケーションがとれたりする児童は多い。地域の学校に対する支援は、たいへん大きなものがあり、「子どもを地域ぐるみで育む」という温かい雰囲気がある。全体としては大きな荒れはないものの、個々には、落ち着かない児童もみられる。また、個々の家庭状況をみると、支援を要する家庭が少なからずあり、温かでねばり強い関わりが必要となっている。
- 学校で認知したいじめは、全てにおいて解消できるように取り組んでおり、不登校の児童に対しても、チームで継続した働きかけをしている。学校のきまりを守れるようにする指導も日常的に行ってきた。昨年度の学校アンケートでは、「学校のきまりを守っていますか」について、肯定的な回答をする児童の割合は95%で、前年度より向上した。しかし、遅刻や忘れ物、朝食の喫食率など、課題も多く残っている。早寝・早起き・朝ごはんを促す「すいみん調べ」等の取り組みを今後も継続していく。
- 学力向上は最も大きな課題であり、この間「基礎・基本の定着を図る」ための取り組みを継続してきた。昨年度の学力経年調査では、市平均とはまだ差があるものの、同一母集団の比較(標準化得点)では、いずれの学年も前年度より向上するなど、一定の成果が得られた。ただし、正答率が7割に満たない児童の割合は依然として大きく、低学力層の底上げが急務となっている。新学習指導要領に基づいた「わかる授業」や「個に応じた指導」「言語活動の充実」等について、今後も指導法の更なる工夫や、教員の授業力向上が求められる。
- 体力面では、昨年度の全国体力・運動能力調査をみると、男子・女子ともに、8種目すべてにおいて全国を上回った。この傾向は、ここ数年続いており、本校児童のよさとなっている。今後も継続した取り組みをすすめたい。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】

- 令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 令和2年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、あてはまる)」と答える児童の割合を80%以上にする。
- 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を0にする。
- 令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を0にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、平成29年度より向上させる。(標準化得点とは、各年度の調査の本紙の平均正答数が、それぞれ100となるように標準化した得点のこと)

- 令和２年度の小学校学力経年調査における正答率５割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成２９年度より５ポイント減少させる。
- 令和２年度の小学校学力経年調査における正答率７割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成２９年度より５ポイント増加させる。
- 令和２年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、平成２９年度より増加させる。
- 令和２年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、すべて全国平均を上回らせる。

２ 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を９５％以上にする。
- 小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、あてはまる）」と答える児童の割合を９０％以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を８５％以上にする。
- 「学校アンケート」において「困っている人を助けている」と肯定的回答をする児童の割合を８２％以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 学校アンケートにおいて「運動（そとあそび）をよくしている」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

学校園の年度目標

- 「学力経年調査」の国語科・算数科において、市平均との差を前年度より縮める。
- 国語科・算数科の単元テストの正答率を75%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。
- 基本的生活習慣の定着化をめざして睡眠時間を確保するよう啓発・指導し、「早寝」の実行率を75%以上にする。
- 学校アンケートにおいて「宿題や道具を忘れずに持ってきている」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

昨年度の実態・反省を踏まえ取り組みを進めてきた結果、以下の成果をあげることができた。全市共通目標は以下の通りの達成状況であった。認知したいじめの解消した割合は100%であり引き続き来年度も100%解消を目指す。

「学校の決まり・規則を守っていますか」の肯定的評価は87.9%であり、目標を下回った。不登校の課題は年々多様化し、複雑化していることから、毎月実施の生活指導連絡会で情報共有するとともに、継続して学校組織全体で総力を挙げて課題解決を目指し取り組んでいく。

学校の年度目標では、「学校に行くのは楽しい」の肯定的評価は、85.7%、「困っている人を助けている」の肯定的評価は、83.3%と、いずれも目標を上回った。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り開くための学力・体力の向上】

全市共通目標では、新型コロナウイルスの影響で、本年度の学力経年調査の結果が出ていないため、達成度をのべることはできないが、個に応じた習熟度別による学習や基礎・基本の定着を目指した朝学習に取り組んできた。今後も個に応じた指導をより充実させ、基礎・基本の定着を図ることで学力下位層を向上させていく。そのために、朝学習の充実や家庭学習習慣の定着を図っていく。また、校内研修の充実と校外研修へのより積極的な参加を通して、各教員の指導力向上を目指す。

「運動（そとあそび）をよくしている」と肯定的に回答した 76.7%となり目標を達成させることができなかった。各学級での声掛けや体育科での指導の工夫、学校全体でのなわとび集会などに取り組み、啓発していく。

学校の年度目標では、国語科・算数科の単元テストの正答率においては、ともに 80%を超え目標を達成することができた。来年度も基礎学力の定着に向けた継続的な取組を強化していく。

基本的生活習慣の定着化における「早寝」の実行率については、74.7%とほぼ目標に達成した。今後は、早寝が定着していない児童・保護者への個別の声掛けを続け家庭と連携し健康的な生活習慣の定着率を向上させたい。

「宿題や道具を忘れず持ってきている」項目については、82.5%で目標も達成することができた。忘れる児童は固定化してきており基本的生活習慣の定着化とともに引き続き家庭と連携していく。

大阪市立南恩加島小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○学校アンケートにおける「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 85.7%</p> <p>○学校アンケートにおける「困っている人を助けている」に対して肯定的に回答をする児童の割合を82%以上にする。 83.3%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校・教育環境の実現】</p> <p>認知したいじめについて、100%解消に向けて組織的に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・「いじめアンケート」を毎学期実施し、認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ⇒R1 100% R2中間 100% R2後期 100%</p>	B
<p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>「学校のきまり」の内容や指導について、教職員間で意思統一を図り、児童が守ろうとする意識を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <p>・小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。 ⇒R1 95.2% R2中間 91.0% R2後期87.9%</p>	C

<p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>南恩フェスティバルや児童集会、異学年活動を工夫し、よりよい人間関係を育てる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートにおける「縦割り班や他の学年との活動が楽しみだ」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 <p style="text-align: center;">⇒R1 87.4% R2中間 82% R2後期 81.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートにおける「困っている人を助けている」に対して肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。 <p style="text-align: center;">⇒R1 89.0% R2中間 83.3% R2後期 85.7%</p>	B
<p>取組内容④【施策1 安全で安心できる学校・教育環境の実現】</p> <p>児童理解に基づいた温かな姿勢で、一人ひとりの心情にあった支援をする。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ・年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 ・学校アンケートにおける「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 <p style="text-align: center;">⇒R1 92.0% R2中間 85.7% R2後期 87.3%</p>	B
<p>取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>あいさつ指導を通して、地域の人や友だちへ進んであいさつできるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートにおける「進んであいさつしている」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 <p style="text-align: center;">⇒R1 91.0% R2中間 91.8% R2後期 87.3%</p>	C
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>① 認知したいじめについて、100%解消に向けての取り組みについては、認知したいじめについては、100%達成できた。今後は、いじめの発生事案数を減らすための学級づくり、学校づくりに取り組んでいきたい。</p> <p>② 「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、目標を下回る結果となったが、学校のきまりを児童は守れている。アンケートをとる際「きまり」についての基準が十分に伝わらない学年もあった。基準を学校全体で共通認識し来年度取り組んでいく。</p> <p>③ 「縦割り班や他の学年との活動が楽しみだ」・「困っている人を助けている」に対して肯定的に回答の目標値は達成できた。</p> <p>④ 「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答の目標値は達成できた。</p> <p>⑤ 「進んであいさつしている」の項目について、目標を下回る結果となった。あいさつ運動など子どもが中心となって行う活動に取組み、あいさつに対しての意識を高めていきたい。</p>	

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○学校アンケートにおいて「運動（そとあそび）をよくしている」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 76.7%</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○「学力経年調査」の国語科・算数科において、市平均との差を前年度より縮める。</p> <p>○国語科・算数科の単元テストの正答率を75%以上にする。</p> <p>国語科80.9%算数科80.8%</p> <p>○小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。</p> <p>○基本的生活習慣の定着化をめざして睡眠時間を確保するよう啓発・指導し、「早寝」の実行率を75%以上にする。 74.7%</p> <p>○学校アンケートにおいて「宿題や道具を忘れずに持ってきている」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 82.5%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 個に応じたきめ細かな指導を行ったり、繰り返し学習したりすることで、基礎・基本的な学習内容を定着させ、できる喜びを味わわせる。</p> <hr/> <p>指標 ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。 ⇒R1 旧4年(7P 増加) 旧5年(14P 減少) ・国語科・算数科の単元テストの正答率を75%以上にする。 ⇒R1 国語:78.6% 算数:79.0% R2中間 結果:国語 81.5% 算数 81.1% R2後期 結果:国語 80.9% 算数 80.8% ・学校アンケートにおいて「宿題や道具を忘れずに持ってきている」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。 ⇒R1 80.9% R2中間 81.6% 後期 82.5%</p>	A
<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 子どもが生き生きと興味をもって取り組めるよう、教材・教具・ICTの工夫、体験活動の充実など、指導法の工夫・改善を図る。</p> <hr/> <p>指標 ・小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ⇒R1 旧4～6年のすべてが前年度を上回った ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。 ⇒R1 旧4～6年のうち、2学年で、2ポイント増加</p>	
<p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 話し合い活動を活発にし、伝え合い、学びあう力を育てる。</p> <hr/> <p>指標 ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p>	
<p>取組内容④【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】 本に親しむ機会や場（読書タイム、お話会等）を設定することで、語彙を増やし、楽しんで読書に親しむ児童を育てる。</p> <hr/> <p>指標 ・学校アンケートにおける「本をよく読んでいる。」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 ⇒R1 70.8% R2中間 67.3% R2後期 71.4%</p>	C

<p>取組内容⑤【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】 楽しく外国語（英語）に親しむ児童を育てるため、指導法を工夫する。</p>	
<p>指標 ・学校アンケートにおいて「外国語（英語）の授業が楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。 ⇒R1 80.5% R2中間 84.3% R2後期 81.6%</p>	A
<p>取組内容⑥【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 体育科の指導を工夫するとともに、休み時間に運動場に出て遊び、学校生活全体を通して進んで体力づくりに取り組むよう指導する。</p>	
<p>指標 ・学校アンケートにおいて「運動（そとあそび）をよくしている」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。⇒R1 79.7% R2中間 70.6% R2後期 76.7%</p>	B
<p>取組内容⑦【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 「睡眠時間」に重点を置き、家庭への啓発・児童への指導を行う。</p>	
<p>指標 ・基本的生活習慣の定着化をめざして睡眠時間を確保するよう啓発・指導し、「早寝」の実行率を75%以上にする。 ⇒R1 83.0% R2中間 76.3% R2後期 74.7%</p>	B
<p>取組内容⑧【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】 栄養教諭による授業を年間2回以上設定し指導する。また、学級での食育指導を計画的に行う。</p>	
<p>指標 ・小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べている」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。 ⇒R1 93.0% R2中間 88.9% R2後期 90.7%</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 国語科、算数科とも昨年より単元テストの正答率が向上し目標に達することができた。引き続き基礎基本を大切にしたい取組を継続していく。 学校アンケートで「宿題や道具を忘れず持ってきている」と回答した児童の割合が増え、目標も達成することができた。忘れる児童は固定化してきており引き続き家庭との連携が必要である。</p> <p>④ 学校アンケートで「本をよく読んでいる」と回答した児童の割合は増えてきてはいるものの目標には達することができなかった。今後は図書館司書と連携を一層強めたり図書委員会の活動を通じて本にふれる機会を増やしたりしていきたい。</p> <p>⑤ 学校アンケートで「外国語の授業が楽しい」と回答した児童の割合は昨年度より増え、目標に達することができた、引き続きデジタル教科書やDVD教材を活用して楽しい授業作りに努めていく。</p> <p>⑥ 各学級での声掛けや体育科での指導の工夫により外遊びをしている割合は上がってきている。今後は、学校全体でのなわとび集会などに取組み、啓発していく。</p>	

- ⑦ 計画通り学期に一度「早寝朝ごはんチャレンジ」を行い「早寝」の啓発に努めている。後期のアンケートがチャレンジ前で数値がやや低くなっているがほぼ目標に達している。早寝が定着していない特定の児童・保護者への個別の声掛けを続けていく。食育に関しては栄養教諭による年2回の授業と毎日の給食クイズ等により栄養や食への関心は高まってきている。
- ⑧ 朝ごはんの大切さについての意識は、児童も保護者も高まってきている。朝食をとれていない特定の児童については、強調週間で把握し個別に声掛けを行う必要がある。